

夏茶の摘採時期が翌年の一番茶に及ぼす影響

杉山喜直・中村晋一郎・久保田朗・大森 薫・大森宏志 (福岡県農業総合試験場八女分場)

Yoshinao SUGIYAMA, Shin-ichiro NAKAMURA, Akira KUBOTA, Kaoru OHMORI and Hiroshi OHMORI :

Effects of the Plucking Time of the Summer Crop of the Tea Plant on the Yield and Quality of the First Plucking Tea in the Following Cropping Year

夏茶(二・三番茶)の摘採時期の違いが翌年の一番茶の収量・品質に及ぼす影響を検討した。

1. 試験方法

福岡県八女郡黒木町の福岡県農総試八女分場内の茶園において、品種やぶきた(1977年4月定植)を供試して1区9.0m², 3反復により試験を実施した。

試験区の構成は第1表に示すように二・三番茶の摘採時期を若芽区と適期区とし、三番茶若芽区については摘採後の整枝処理を行う区と行わない区を設定した。摘採時期の判定基準として出開度と新葉数をを用い、若芽摘みは出開度40~50%, 葉数3枚, 適期摘みは出開度70~80%, 葉数4枚を目安として摘採した。摘採後の整枝処理は摘採面と同じ高さで行った。

生葉収量は可搬型摘採機により摘採した新芽を計量した。また、摘採芽の性状は、20cm枠摘みの新芽を計測した。製茶は2Kg型製茶機を用いて行い、製茶品質は形状、色沢、香気、水色、滋味の5項目について、各項目20点計100点満点の普通審査法で評価を行った。

2. 結果及び考察

1) 翌年の一番茶の摘採時期及び収量(第2表)

一番茶の摘採時期及び摘採芽の出開度は、処理区間にほとんど差が認められなかった。一番茶の摘採時期について前年の二・三番茶の摘採時期の違いによる影響は、

ほとんどないものと考えられ、一番茶芽の萌芽に大きな影響を及ぼす秋整枝、春整枝が深く関連していることが推察された。

生葉収量は、二番茶若芽摘採を行ったA, B区が適期摘採のC, D区よりも多収傾向を示した。また、二番茶の摘採時期が同じ、A-B区, C-D区の間にはほとんど差はみられなかった。

このことより、翌年の一番茶の収量は前年の二番茶の摘採時期による影響が大きく、三番茶の摘採時期の違いはほとんどないものと考えられる。また、前年の二番茶の若芽摘採による増収効果については、その因果関係は明らかでないが、少なくとも、前年の二・三番茶の若芽摘採による悪影響は小さいものと推察された。

2) 翌年の一番茶の品質(第2表)

適期摘採のD区が最も優れており、次いでC, A区と続き、B区が最も劣った。二・三番茶とも、適期に摘採したD区が最もすぐれ、他がそれより劣っている傾向から推察して、前年の若芽摘採は翌年の一番茶の品質、特に内質に悪影響を及ぼすものと考えられる。

また、二番茶を若芽摘採したA, B区の品質が適期摘採したC, D区より大きく劣っているため、二番茶の若芽摘採の影響が大きかったものと考えられる。

したがって、一番茶の品質を考えた場合、前年の二番茶の摘採時期が重要であると考えられる。

3. まとめ

前年の二・三番茶の若芽摘採は翌年の一番茶の摘採時期や収量にはほとんど悪影響を及ぼさないと推察された。一方、製茶品質については、内質に及ぼす悪影響が大きいと推察された。

したがって、若芽摘採による良質夏茶を生産する場合、翌年の一番茶への影響を考慮した内質重視の肥培管理が必要であると考えられる。

第1表 試験区の構成

区	二番茶	三番茶
A	若芽摘採	若芽摘採
B	"	適期摘採
C	適期摘採	若芽摘採
D	"	適期摘採

注) ①若芽摘採：出開度40~50% 葉数3枚
②適期摘採：出開度70~80% 葉数4枚

第2表 翌年の一番茶収量と摘採芽の性状及び製茶品質

品 種 (年次)	区	生葉収量 (Kg/10a)	新芽数 (本/m ²)	百芽重 (g)	出開度 (%)	製 茶 品 質		
						外 観	内 質	合 計
やぶきた (1987年)	A	561 (127)	1083	50.7	86	29.0	42.0	71.0
	B	532 (121)	950	46.7	86	28.0	39.8	67.8
	C	452 (102)	925	43.5	82	27.5	45.0	72.5
	D	441 (100)	925	41.0	86	28.5	46.3	74.8

注) ①()はD区を100とした場合の指数で示した。
②製茶品質は普通審査法(100点満点)による評点で示した。